

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	家庭総合 ～自立・共生・創造～(東京書籍)				
副教材(出版社)	平成30年度 家庭科ノート(愛媛県高等学校家庭科教育研究会)				
授業の概要	(1)人の一生と家族・家庭(2)子どもや高齢者との関わりと福祉(3)生活の科学と環境(衣生活)(4)消費生活と環境(5)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の5項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら展開する。				
授業の目標	1 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、衣生活、消費生活と環境に関する知識と技術を総合的に習得する。 2 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	○高校の家庭科について 1 自分らしい人生をつくる (1)生涯発達の視点(2)青年期の課題 (3)目標を持って生きる(4)人生をつくる(5)家族・家庭をみつめる(6)これからの家庭生活と社会 2 高齢社会を生きる (1)高齢期を理解する(2)高齢者の心身の特徴(3)高齢者を支える(4)これからの高齢社会 ○ホームプロジェクトについて	・家庭科で何を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめる。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 ・家事・職業労働について知り、ワークライフバランスについて考える。 ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 ・高齢者を支援する具体的な方法や高齢者に関する福祉について学ぶ。 ・ホームプロジェクトの計画		
	2 学期	○ホームプロジェクトの発表 3 衣生活をつくる (1)衣服をつくる(2)衣服の役割を考える(3)衣服を入手する(4)衣服を管理する(5)衣生活の文化と知恵(6)これからの衣生活 4 子どもと共に育つ (1)命を育む(2)子どもの育つ力を知る	・平面構成と立体構成の違いを学ぶ。 ・被服製作の基本的事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ・被服の様々な役割を整理する。 ・被服材料の特徴を理解し、表示の意味が分かる。 ・汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。 ・出産前後の健康管理と子どもの発達の様子・発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わり大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的生活習慣の形成、健康管理について学ぶ。		
	3 学期	(3)親として共に育つ(4)これからの保育環境 5 経済生活を営む (1)職業生活を設計する(2)計画的に使う(3)国民・国際経済と家庭の経済生活(4)消費行動と意思決定(5)現代の消費社会(6)消費者の権利と責任(7)これからの消費生活と環境	・愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・児童福利の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 ・家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・消費者の権利と責任を理解する。 ・持続可能な生活について考える。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身に付けようとしている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境など、生活を充実向上するために必要な知識を総合的に身に付けている。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。				

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科、商業科		
教科書(出版社)	家庭基礎 ～自立・共生・創造～ (東京書籍)				
副教材(出版社)	平成30年度 家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)				
授業の概要	「人の一生と家族・家庭及び福祉」「生活の自立及び消費と環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」で構成。内容は、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら展開する。				
授業の目標	人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	○HP・家庭クラブについて 1 自分らしい人生をつくる (1) 青年期の課題 (2) 家族・家庭をみつめる 2 高齢社会を生きる (1) 高齢期を理解する (2) これからの高齢社会 3 共に生き、共に支える (1) 私たちの生活と福祉と共生社会 ○HPについて	・家庭科で何を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。 ・自立することの大切さ、自己実現について考える。 ・生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つけ、職業選択も見通す。 ・男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 ・高齢者を支える福祉制度と課題を考える。 ・社会保障制度の理念と内容を学ぶ。 ・共生社会の理念を理解し、ユニバーサルデザインを考える。 ・ホームプロジェクトの計画		
	2 学期	○HPの発表 4 子どもと共に育つ (1) 子どもの育つ力を知る (2) 親として共に育つ (3) これからの保育環境 5 衣生活をつくる (1) 衣服の役割を考える (2) 衣服を入手し、管理する 6 食生活をつくる (1) 食生活について考える (2) 食事と栄養・食品 (3) 食生活の安全と衛生 (4) 生涯の健康を見通した食事計画 (5) これからの食生活	・ホームプロジェクトで調べたことを各クラスで発表する。 ・子どもの育つ力と発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わり大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ・児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 ・被服の様々な役割を整理する。 ・被服材料の特徴を理解し、汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。 ・日常の食生活を振り返る。 ・食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。		
	3 学期	(6) 調理の基礎 ○調理実習(①～③) 7 住生活をつくる (1) 住生活の計画と選択 (2) これからの住生活 8 経済生活を営む (1) 国民経済・国際経済と家庭経済 (2) 消費行動と意思決定	・基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ・住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ・ライフステージに合った住居を考える。 ・経済と家計との関係を理解する。 ・消費行動における自分の意思決定の重要さとそのプロセスを理解する。 ・キャッシュレス社会について考え、契約や消費者問題について、適切な判断ができるようにする。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などの充実向上を目指して、実践的な態度を身に付けようとしている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活など、生活を充実向上するために必要な知識を身に付けている。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				